



ため池ハザードマップ から始まる 地域防災

～災害から命を守るため いま「できること」～

地区住民を守るために

近年の豪雨や地震で農業用ため池が被災し、甚大な被害をもたらした。昨年度新たに、「ため池の管理に関する法律」が制定され、災害時の避難対策が義務付けられた。高畠町高安地区^{（しんやま）}では集落全体が「高安ため池」の下流域にあることから、災害時の円滑な避難に向け「ハザードマップ」を作成し、住民を守ることにした。令和2年2月、ハザードマップの作成に向け、高安地区の集落役員・消防団員・耕地整理組合員が集まり、避難経路や避難所について意見を出し合った。過去の台風や豪雨などの状況を思い出し、危険箇所をすぐさま地図に書き込めるのは、みんなが地区をよく知り、今まで守ってきたからだ。そうして完成したハザードマップを集落全52戸に配布し、地区公民館の入り口にも掲示して、住民へ注意を促した。

災害で活きた日々の防災意識

高安地区では、ハザードマップの作成をきっかけに地区の身近な防災について考えるようになった。自主防災会では、災害に備えた取組みについて話し合い、足りない防災用品を購入した。その後、みんなで歩きながら、住宅に影響が出る場所や土砂崩れの危険箇所などを現地を確認した。こうした備えがあり、令和2年7月の豪雨の際には、新たに用意した防災用品を使いながら、危険箇所への対応がスムーズにできた。

高安地区の自主防災会では、町役場のアドバイスをもとにこんなものを用意しました



発電機
投光器



ロープ(2種類)
ヘッドライト

コードリール
カラーコーン

土のう袋
など





大野正敏 区長



○大雨で冠水したのですが…

昔から水の確保に苦労した高安地区には、集落を囲むように7つの農業用ため池がある。過去の大雨では、市街地へ向かう主要道路が冠水し、集落が孤立してしまつた。こうした経験から、農業者以外にも含め住民の防災意識は高いと思う。

○マップ作成の話し合いはどうでしたか

避難所の設定は1人ではできない。昨年の台風では4家族の避難が必要になつたが、町指定の大きい公民館は人がいっぱい入れなかつた。高安公民館は川の近くではあるが、高地になつていて水が上がつたことがないので、今回の話し合いで避難場所に設定することができた。他にも、自分では気が付かなかつた危険箇所についても確認できた。

○防災のために「うまく生きる」とは

手助けが必要な人の対応について話し合いをすること、備品の用意。災害が起きた際に1人で動けない方をすぐに助けに行けるよう、自主防災会を中心に援助の計画を立てている。

今年度は危険箇所対応の防災用品を揃えたので、来年度は避難所に備蓄するための水や保存食を用意したい。



避難経路や危険箇所について話し合う様子（令和2年2月）

住んでいる地域の「ため池ハザードマップ」を確認してみましょう！



ため池は、農家の方以外にはあまり馴染みのない農業用施設かもしれませんが、みなさんの住んでいる家の近くにため池はないでしょうか？この機会に1度確認してみましょう！

人的な被害が予想されるため池については、市町村のホームページで見ることができます。ほとんどがPDF形式なので、スマートフォンやタブレット端末への保存もできます。

災害・緊急時はインターネットに接続できない場合もあるので、洪水等のハザードマップとあわせて、すぐに確認できるように準備しておきましょう。

← 高島町ホームページ（スマートフォン画面）

ため池ハザードマップ 🔍